

校長 村井 浩昭

この春の卒業生は、高校生活三年間をマスクに覆われて過ごしました。三年間一度も合唱することのなかった校歌をやっと奏でることができたのが卒業式でした。困難な状況を耐え抜き、新しい環境下で工夫した生活を送ったという自信を持って未来へ羽ばたいてくれると信じています。そして、4月には新入生106名を迎え入れ、普通科二クラス、工業科二クラスで入学式を挙行することができました。5月8日には、新型コロナウイルスも5類に引き下げられ、学校行事や集会等も対面で行うことが多くなっています。生徒たちの語り合う声が響き、休み時間の談笑やグラウンドでの掛け声にも活気が戻ってきています。

PTA会員の皆様には、日頃から本校の教育活動推進に多大なお力添えをいただいておりますとともに、御理解と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。4月7日の入学式後にPTA総会が行われ、すべての議案について御承認をいただきました。森山しげる前会長御臨席の中、本田雅也新会長を中心とした新体制が発足し、令和五年度のPTA活動が正式に始まりました。また、5月18日には、第一回PTA理事会が対面で開催され、事業報告や決算・予算報告があり、各専門委員も決定いたしました。久しぶりの対面開催で、新鮮な気持ちで審議ができました。PTA活動がコロナの状況に左右されず無事スタートいたしましたこと、安堵の気持ちとともに心からお喜び申し上げます。また、旧役員の皆様におかれましては、コロナの状況が長引き、気苦労が絶えない中で、多方面から教育活動や生徒の成長を支えていただきましたことに感謝と敬意を表します。

昨年度から、新制服が導入され、性別に関係なく着こなすスラックスなども定着してきました。近隣の中学校も本校の取組を参考にしていると聞いています。ブレザーとチェック柄のボトムスとのセットアップや夏用のマリブルーとネイビーのポロシャツは、地域を爽やかにしてくれています。第77回愛媛県高等学校総合体育大会には地区予選を勝ち抜いた総勢71名が出場しました。サッカー部は、県総体出場叶わぬリベンジで、フットサルの大会において愛媛県で優勝し、四国大会出場となりました。ものづくりコンテストにおいて、昨年度は木材加工部門のみの出場でしたが、今年度は、電気工事部門にも出場しました。木材加工部門は、愛媛県大会、四国大会ともに一、二位を独占し、第一位の生徒が、第18回若年者ものづくり競技大会（静岡県）、第23回高校生ものづくりコンテスト（長崎県）という二つの全国大会出場への切符を手に入れました。

ところで、「桐朋学園」を御存じでしょうか。東京都調布市に本部を置く学校法人で、「男子部門」、「女子部門」、「音楽部門」の三つの異なる部門に分かれており、幼稚園から大学まであります。世界的な指揮者小澤征爾氏は初期の短期大学時代の卒業生です。この「桐朋学園」も本校設立者の一人、山下亀三郎翁が私財を投じて設立しました。新型コロナウイルスの影響で延期が続いていた桐朋学園主催の宇和島市でのコンサートを10月7日（土）に実施することが決定されたようです。その前日に山下翁と縁のある本校でもコンサートを行いたいという申し出があり、来県する演奏家のうちフルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴット奏者の5名が本番前日の10月6日（金）に本校で演奏してくださることになりました。どの方も世界的な奏者とお聞きしております。思いがけない催しが舞い込み、嬉しい限りです。確実に実施する環境を整えるため、当初10月5日（木）に実施予定であった体育祭を一日早め、10月4日（水）実施といたしますことを御了承ください。

さて、本校では、昨年度途中にスクールミッションやスクールポリシーを策定いたしました。また、重点努力目標は昨年度同様「情理を尽くし、自ら考え、行動する生徒を育成する一精神（こころ）を修め、知と技を練る吉田高校一」としております。更に、育みたい資質・能力、学校の目指す方向性や特色をより明確にするため、グラウンドデザインも作成し今年度より公表しております。詳細はホームページに掲載しておりますので、ぜひ御覧ください。

最後になりましたが、生徒が学校で得た知識や技術を、応用力や実践力として身に付け、未来を支える人材として前進できるよう、教職員一同、生徒の成長に寄り添いながら教育活動に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬ御協力・御支援をよろしくお願いいたします。